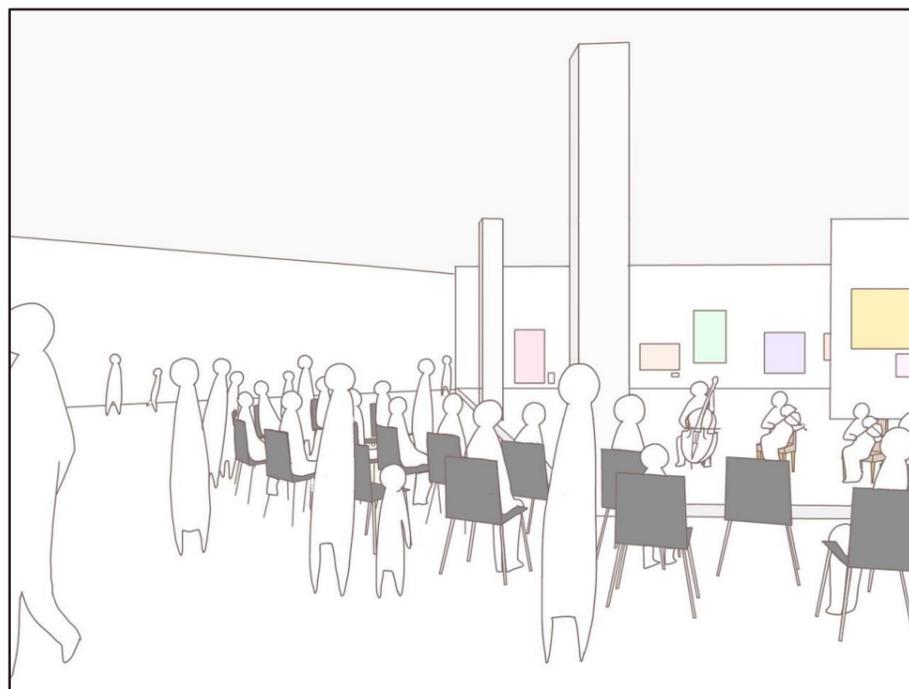


【Aグループ】

これまでの検討内容から想定されるシーン (パース)

これまで第3回・第4回検討会でふくらませた活動や空間のイメージから、想定されるシーンについて例示します。

これらを基に、今回のディスカッションでは、「新文化ホールで行いたい活動」と「その活動を行うための空間のアイデア」について深めましょう。



■大きな空間を多用途に活用

壁や間仕切りだけではなく、床や天井の高さを変えること等でも緩やかに空間を分節することができる。例えば、共用部の床に僅かにレベル差を設けることで、そこがロビーコンサートのステージとして活用でき、ふらっと来た人でも演奏を楽しめる。



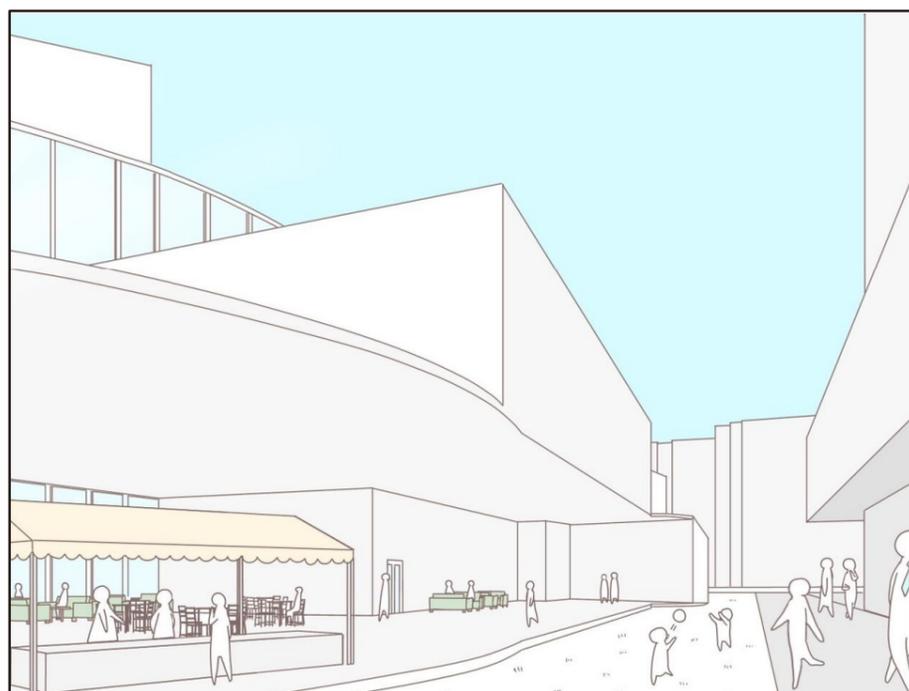
■吹き抜け空間の活用

大きな吹き抜けや開口があると、多方面からの視線を集めることができ、催事等を行いやすい。例えば、開放的なエントランス空間でイベントを行えば、施設の中だけでなく、外部にも活気あふれる様子が伝わる。



■室内外を連続させてできる活動

諸室の出入口付近に滞在できるスペースをつくると、室内の活動を外部に延長させることができる。例えば、展示物を室外にも掲示可能な仕様とすることや、会議の合間や終了後にリラックスして交流可能なエリアとすることが想定できる。



■半屋外で内外がつながる活動

大きな庇や屋根付き広場があると、施設内の活動と外の活動とをつなげることができる。例えば、総合庁舎と面する部分では、庁舎と連携したイベントを開催することができる。また、普段は市民の憩いの場となる。



■共用部と備品等で可能となる日常的な利用

共用部の色々な場所に机や椅子などの備品があることで、市民が日常的に利用しやすい施設となる。例えば、高校生が自習に使う、散歩途中の人が休憩するなど、イベントや鑑賞等が目的でなくてもふらっと立ち寄って過ごすことができる。